



talk! talk! talk! 女優・美波さん



女優 美波さん

映画に舞台にドラマにと女優として活躍する美波さん。モデルとしても若い世代から絶大な人気を得ており、その他にも絵画制作や自主映画の監督、カメラ雑誌でのコラム連載など多彩な才能を発揮している。そんなアーティスト肌である美波さんにとって、写真は何より落ちつく存在であり、自分のリズムを取り戻すための手段でもあるという。中学生の頃からカメラを手に入っていたという彼女の、感性豊かな写真観を存分に語っていただいた。

プロフィール

ミナミ。1986年、東京都生まれ。2000年に「バトル・ロワイアル」（深作欣二監督）でデビュー。大人びた美貌と存在感で注目を集めた。その後ドラマ、舞台と活躍の場を広げ、モデルとしても人気を得ている。
主な出演作に映画に「惨劇館 夢子」（久保山努監督）「羊のうた」（花堂純次監督）「マナに抱かれて」（井坂聡監督）「富江 REVENGE」（及川中監督）「さくらん」（蛸川実花監督）など。ドラマ作品に「楽しい家族旅行」（フジテレビ系）「チアーズ天国からの応援歌」（日本テレビ系）など。舞台では「眞作・罪と罰」（野田秀樹演出）「転世薫風」（きだつよし演出）など。また、現在カメラ雑誌「PHaT PHOTO」でコラム「連彩」を連載中。
今後の予定として、映画「逃亡くそたわけ」（本橋圭太監督）「ROBO☆ROCK」（須賀大観監督）が公開を控えている。さらに舞台「エレンディラ」（蛸川幸雄演出）が8月から彩の国さいたま芸術劇場で公演予定。

Beginning 出会い

失敗も経つつ 一眼レフカメラを操る

写真はいつ頃から撮り始めたのですか？

中学生くらいの頃から興味があって撮り始めました。ちゃんとしたカメラは持っていなかったんですけど、レンズ付きフィルムで今日はこんなテーマで撮ろうとか、その日によってテーマをいろいろ決めて撮影していましたね。高校生になった時にデジタルカメラを持つようになり、どこかへ行ったらそれで撮っていました。
でも小さい頃から疑問だったのが、レンズ付きフィルムと違ってレンズとファインダーの位置が違いますよね。だから、のぞいている風景と実際撮れる写真って、全部ずれているんだと思っていて、ずっとこういう風にカメラの位置をずらして撮っていたんです（おでこの前にカメラを構えて）。結果、プリントしたら人の顔が全部切れていて……。そういう苦い思い出もあります（笑）。

レンズ付きフィルムは一眼レフと違って、レンズとファインダーの光学系が分かれているので、撮影範囲は多少ずれてしまうのですよね。

え、そうなんですか？！やっぱりそうだったんですね。じゃあ、もう少しカメラをずらす度合いを手加減をすれば良かった（笑）。レンズを手でふさいでも、ファインダーをのぞくとちゃんと向こうが見えるから、ずっとおかしいなと思っていましたよ。
本格的に撮るようになったのは17歳の時からです。お仕事でフォトグラファーのNaokiさんと出会って、写真を教えて欲しいというお話をしたらカメラをくださって。

プレゼントしてもらったのですか？

いえ、使わなくなるまで持っていていいよということだったんです。だから、今も一応レンタル中なんです（笑）。それから本格的に始めて、今はやっぱりフィルムで撮るのが好きですね。

仕事で撮られる機会も多いと思いますが、それで写真に興味がわいた訳ではなかったのですね。

はい、違いますね。自然と好きになっていました。逆に自分で写真を撮るようになってから、仕事でも撮られる意識がすごく変わりました。こういう構成で、こんな風に撮られるから、服はこの角度がきれいに見えるとか。1枚の写真で作品を作るんだということを考えながらモデルができるようになりましたね。写真を撮る前は、撮られているときって自分のことだけを考えていたけれど、皆でひとつの作品を作っていくという感覚が生まれました。

撮影方法はNaokiさんに教えてもらったのですか？

いえ、撮り方を教えてもらったりはしていないのですが、撮った写真を見てもらったりはしました。でも「おもしろくない」と言われてしまって（笑）。それで、「そっか、私考え過ぎていたんだな」と気づいたんです。たとえば、この構図なら3分割したうちの下から3分の1の辺りに被写体がくるようにして、とか……。いろいろ考え過ぎて、心で撮っていなかったんです。

なるほど。では、今お話で出たような構図などの勉強はどこでされたのですか？

写真の本を買っている勉強したり、テクニックを試したりもしました。フィルターを使って撮ってみたり、デジタルカメラではコントラスト上げて遊んでみたりとか。でも始めは面白いんですけど、ちょっとやったらもういいやって思いましたね。今、その頃の写真を見ても何とも思わないんです。リアルな色ではないから。作った色では空気感も伝わらないですね。写真の楽しみ方はいろいろあるので、工夫したり加工したりするのがだめだとは思わないけれど、私はストーリーとにきめいたときに撮りたいと思うんです。

Pleasure 楽しみ

撮っている瞬間は無心「自分のリズムを取り戻せるんです」

本格的に撮影するようになって、それまで撮影していた時と何か変わりましたか？

思い通りになかなか撮れないですね。露出を合わせるのも、うまくいかなくて「う〜」ってなります。それに、ああやっておけば良かったな、とか思い返したりもします。でも逆に偶然が重なって、奇跡的に撮れる写真もあって。撮るもの全部をいい写真にしようと思っているわけじゃないので、30枚中2、3枚すごくいい写真が撮れたらそれだけで嬉しいですね。以前はオートで任せ

ていた絞りや露出といった設定も、今は自分で考えるから時間もかかるんですけど、そういうことも含めてすごく楽しめています。

普段どういったものに心惹かれて写真を撮るのですか？

ときどき、歩いていてすごくわくわくするときがあるんです。面白いとかきれいとか、心がときめくんですよ。それで、「あ、これ撮らなきゃ」と思ってすかさず撮る。どこに行ってもそういう瞬間があるんです。あと、この目の前に広がる景色に人が歩いてきたら、すごく面白くなるって思ったときは、誰かが歩いてくるまで5分、10分待ってみたりもします。想像したような絵が撮れるまで、好きなだけ待っていますね。そういう時間はすごく落ちつく。忙しくて生活に追われているときに、そうやって写真を撮ると自分のリズムに戻せるんです。撮っているときの空気感が自分の呼吸のリズムと合ってくるというか。無心でいられる時間ですね。

では、美波さんにとって写真はどんな存在ですか？

そのときの記憶というか、見た視点、見たもの、それをメモするみたいな感覚なんです。写真を見返すことで忘れていたものを思い出したりもしますし。たとえば、何年後かに写真を見たとき、その写真を撮った瞬間何を感じていたのか、どういう視点でいたのか、何に気づいていたのかなどが分かるんですよ。一瞬一瞬をこんなふうに見ていたんだなって思います。撮っている瞬間は自分の視点で世界が見えていて、そういった瞬間が1枚1枚作品になっていく。写真がどんどん増えていくのが楽しいし、すごく嬉しいです。それに、何より落ちつく存在なんです。カメラをもっているだけですごく落ちつきます。



なるほど、その時々自分の世界を大切に残していращやるのですね。これまでにたくさん溜まった写真はどんな風に整理されてますか？

そうですね、高校生の頃はアルバムの両ページに1枚ずつ写真を貼って、それぞれを単写真として見る場合と、両ページの2枚の写真を組み写真としてみる場合と、見開きで2通り楽しめるようにまとめたりしていました。たとえば、誰かの誕生日会のにぎやかな写真の隣には、ぜんぜん関係のない外国で撮った男の子が一人きりで写っている写真を組み合わせたりとか。皮肉っぽく。

ストーリーができますよね。

そうなんです。2枚の写真を対比させたり、色彩で関連性をもたせたり。今は、フィルムごとにまとめて、その中から何枚か選んでアルバムに入れていますね。

お気に入りの写真をピックアップしているのですね。

でも、選ぶのは難しいですね。そのときは何でもなかった写真が、何年後かに見ると「いいじゃん！」って思ったりもしますし。好きな写真ってときと共に変わっていくんですよ。だから、今はピンとこなくてもこれはよくないって言いたくないし、あまり写真たちを差別したくないんです。

Photo's 作品紹介

旅先や日常で、心動かされた瞬間を切り取った写真たち



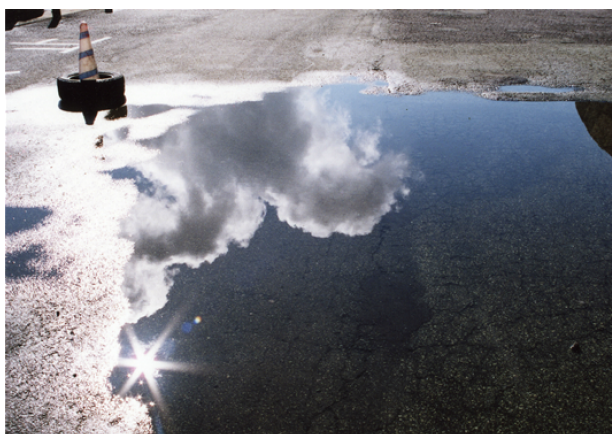
1 フランスにて



2 フランスにて



3 九州にて



4 九州にて



5 九州にて



6 九州にて



7 ニューヨークにて



8 ニューヨークにて



9 モロッコにて



10 新宿にて

Future これから

思い通りの色に焼きたい 考え過ぎずに撮っていく

これからどんなものを撮りたいですか？

あまり何が撮りたい！という気持ちはなくて好きな時に好きなものを撮っていきたいですね。純粋に趣味として楽しんでいければいいと思います。でも、これからは焼き方の勉強をしたいですね。見たままの、思ったままの色に自分でプリントできるようになりたいんです。

以前、モロッコへ行った時の写真を近所のお店のDPEに出したんですね。そのフィルムにはモロッコで撮ったものと、帰ってきてから新宿で撮ったものが入っていたんです。でも出来上がった写真を見たら、撮った時の色とぜんぜん違っていて。古い色あせた写真みたいになっていたんですよ。モロッコも、新宿も同じ雰囲気になってしまっていて。特に、モロッコはこんな風ではないのに！と思って、すごいショックでしたね。

お店によってプリントの色味や雰囲気って違う場合があるかもしれませんね。

そうですね。他のお店でプリントしたモロッコの写真は、乾燥した現地の空気感が伝わるように仕上がっているのに、それだけが違うのでショックです。あと、私は光沢ではなくてマットな感じが好きなので、いつも絹目でプリントしてもらっているんですけど、絹目の風合いもお店が扱う印画紙によって違ってきちゃうんですよね.....。

フィルムが持つ特性や現像液の状態によっても写真の色は変わりますし、記憶やイメージ通りの色に近い写真を仕上げることは難しいですよ。

はい。でも、結果にいろいろこだわらずと撮るときに頭で考え過ぎてしまうから嫌なんです。なるべく技術的なことは考えたくなくて、感性だけで撮ってきたいですね。すごくこだわって、考えて撮るよりは、考えない程度にこだわるくらいが丁度いい。好きな範囲は越えたくないと言いか、写真に反省したくないんです（笑）。たとえばブレている写真もたくさんあるんですけど、それでも反省はしません。ブレていても気にならないですね。

なるほど。本当に感性のままに写真と関わっていたいという考えなのですね。では、たとえばモロッコへ行かれたときはどのくらいのペースで撮られていたのですか？

モロッコへ行った時は、10日間滞在して...フィルム9本くらい撮りました。足りなくなって現地で買ったりしたのでもう少し多いかもしれないですね。1日1本以上は撮っていました。今度お仕事でチュニジアへ行くので、砂漠の写真とかを撮りたいですね。カメラに砂が入らないように気をつけながら撮ってきます。

どこかへ行って、写真を撮るというスタイルはずっと変わらないですか？

んー、分かりません（笑）。ずっとそうしていくんだ、ということもあまり考えていないですね。嫌になってしまうかもしれないし、撮りたいと思わなければカメラを触らない時期もあるだろうし。本当に、ただ好きな時に好きなように撮るといっただけですね。

なるほど。写真は自分に課すものではないですね。

はい。でも、これからは焼く勉強をしていききたいですね。それだけは考えているんですが、あとは考えないで撮っていければいいですね。



➤ [コンテンツトップへ戻る](#)

※掲載している情報は、コンテンツ公開当時のものです。

株式会社 **ニコン** 映像事業部

株式会社 **ニコン** イメージング ジャパン

© 2019 Nikon Corporation / Nikon Imaging Japan Inc.